

明野ふくろう便

明野中央病院広報誌 | vol.24

変形性ひざ関節症

保存療法

軽い症状

APS (次世代PRP)

第3の治療法

手術療法

重い症状

PRP療法をご存知ですか？

誰もが生まれながらにして持っている「自然治癒力」を利用した治療法である「再生医療」。その中で、すでに実際に治療として行われているものにPRP（多血小板血漿）療法があります。PRP療法とは、人の血液に含まれる血小板の成長因子が持つ組織修復能力を利用し、私たちに本来備わっている「治る力」を高め、回復を目指す新しい治療法です。海外では、2000年頃からプロスポーツ選手のケガの治療などに使用されたことで注目され、その後国内でも、肘やひざの痛み、腱や筋肉の損傷などの新しい治療法として期待を集めています。

人の血液に含まれる血小板には、止血作用とともに、成長因子を放出して損傷部分を修復する働きがあります。血小板が放出する成長因子には、細胞増殖や血管の形成などに役立つものが数種類あります。それらが損傷部位に直接働きかけて細胞増殖を促進し、修復機能を高め、自然治癒力によってケガや病気を治療すると

注目の再生医療
多血小板血漿
PRP療法
APS療法

治療の流れ

患者さんの血液を約55ml採血

遠心分離機でPRPを抽出

PRPを患者に注射

テニス肘
野球肘
ゴルフ肘
足底腱膜炎
筋挫傷
肉離れ
膝蓋腱の炎症 (ジャンパーズニー)

PRP療法の臨床使用が報告されている疾患

考えられています。自分の血液を利用するため安全性が高く、体への負担が少ないことも特徴の一つです。PRP療法の流れとしては、患者さん自身の血液を採血し、遠心分離機にかけて、血液にある血小板を含む多血小板血漿（PRP）を採り出し、患部に注射するというものです。

外来担当医師のご案内

担当医師名		月	火	水	木	金	土	
内科	院長 木下 昭生	午前 ○	○	○	○	○	○ 第1・3土	
	内科部長 西宮 実	午前 内視鏡 (胃カメラ)	○		内視鏡 (胃カメラ)		○ 第1・3土	
		午後 内視鏡 (大腸カメラ)	○		○		休診	
	渡邊絵里奈	午前			○			
		午後					休診	
	長松顕太郎	午前						
	午後					○ 休診		
整形外科	樋口 義洋	午前					○ 第2・4・5土	
		午後					休診	
	理事長 中村英次郎	午前	○	手術	○	手術	○	○
		午後	手術	15:30~	○	15:30~	手術	休診
	こつ・かんせつ・リウマチ センター センター長 藤川 陽祐	午前	○	○	手術	○	手術	○
		午後		手術	手術	○		休診
副院長 原 克利	午前	手術	○	手術	手術	手術		
	午後	○	手術	手術	○		休診	
こつ・かんせつ・リウマチ センター 脊椎外科部長 吉岩 豊三	午前	手術	手術	○	手術			
	午後	手術	○ 脊椎専門	手術	手術	○	休診	
荻本 晋作	午前				手術			
	午後				○ 肩専門		休診	
形成外科	橋本 二郎	午前						
	午後			○			休診	
麻酔科	ペインクリニック 高谷 純司	午前	○		○			
	午後	○					休診	



INFORMATION

診療科目

内科・整形外科・リウマチ科
 消化器内科・形成外科
 リハビリテーション科・麻酔科
 ペインクリニック内科・放射線科

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～11:30
 14:00～17:30
 土曜日 8:30～11:30
 日曜日・祝祭日 休診

病院理念

医療・介護を通じ、
患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一、家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一、たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一、地域の健康増進・病気の予防に努めます



患者さんの権利について

私共は、患者さんの権利に関するリスボン宣言を遵守致します

1. 平等で最善の医療を受ける権利
2. 安全に医療を受ける権利
3. 治療を自由に選択し自己で決定する権利
4. 治療内容を知る権利及び知らないでいる権利
5. プライバシーが守られる権利
6. 他の医師や第三者の意見も聞き納得して治療を受ける権利 (セカンドオピニオン)

医療法人社団 唱和会

明野中央病院

発行日 2019年5月
 〒870-0161 大分市明野東2丁目7番33号
 TEL 097-558-3211(代表) FAX 097-558-3709
 E-mail akenohp@fat.coara.or.jp
 http://www.akenohp.jp/

変形性ひざ関節症の新たな治療法 APPS療法

PRP(多血小板血漿)に特別な加工を加え、抗炎症成分や軟骨の健康を守る成長因子を高濃度抽出したものが「APPS」です。ひざ関節症の治療に有効な成分が高濃度に含まれるため次世代PRPと言われています。

ひざ関節症の関節内では、軟骨の破壊を引き起こす悪いタンパク質の働きが活発になっていきます。悪いタンパク質は、炎症を悪化させ関節の痛みを増加させます。この悪いタンパク質の働きを抑え、軟骨の破壊に傾いた関節内のバランスを改善する良いタンパク質がAPPSです。つまり、人の血液には関節の炎症を抑える良いタンパク質も存在し、それを高濃度に抽出した溶液がAPPSなのです。APPS療法は、悪いタンパク質が過剰に存在する関節内に良いタンパク質を豊富に含むAPPSを注射し、炎症バランスを改善することで痛みを軽くし、軟骨の変性や破壊を抑える治療法です。

PRP療法、APPS療法は、自分の血液を使用するため、安全性の高い治療法ですが、一般的な注射同様、関節液が漏れる、関節の痛み、こわばり、腫れなど

の副作用が報告されています。また、新しい治療法のため、健康保険が適用されない自由診療となっています。

※当院で提供するPRP療法及びAPPS療法は、再生医療等の安全性の確保に関する法律に基づき所定の手続きを行っています。

APPS療法 よくある質問

- Q APPS療法とは何ですか？
- A ご自身の細胞や血液成分などを利用して新しい治療選択肢です。
- Q APPS療法でひざ関節症は治りますか？
- A APPS療法は関節の痛みや炎症を改善することを目的とした治療です。炎症を抑えることで、関節内の軟骨破壊や環境の悪化を防ぐことが期待されています。
- Q APPS療法の効果はどのくらいで現れますか？
- A 個人差はありますが、注入後1週間ほどで効果を実感する方もいます。
- Q APPS療法による痛みの改善効果はどのくらい続きますか？
- A 海外の治療報告によればAPPSを1回注入後、約24ヶ月続くことが報告されています。
- Q APPS療法は安全ですか？

A APPS療法はご自身の血液を利用しているため安全性も高く、来院当日に受けられる体への負担が少ない治療法です。

Q 入院が必要ですか？外来治療ですか？ひざを切開することになりますか？

A この治療はご自身の血液から抽出したAPPSをひざ関節に注入するだけなので、ひざを切開する必要はなく、入院不要で来院当日に治療が可能です。患者さんの体への負担はヒアルロン酸注射を打つ時とほとんど変わりません。

Q 高齢ですが、APPS療法を受けることができますか？

A 体への負担が少ない治療なので、高齢の方でも治療を受けることができます。ただし、ひざ関節の破壊が進んでいるような重度の方は、年齢に関わりなく手術が適している場合もありますので、医師とよく相談することが大切です。

Q 治療後は普通通りに活動してよいのでしょうか？

A 治療後14日間は活動レベルを最小限に、治療前より活発にしないことが推奨されます。

Q なぜ自由診療なのですか？

A APPS療法は保険適用前の新しい治療だからです。APPS療

腰痛の話

当院は、脊椎外科専門医とペインクリニック専門医がチームを組み、腰痛に対する専門的治療を行っています。

ヘルニア治療に新たな治療法を導入

腰痛の代表的な疾患に「腰椎椎間板ヘルニア」があります。「腰椎椎間板ヘルニア」は年齢や性別に関係なく現れます。急に痛みが出て、腰痛だけでなく足のしびれや背を曲げることができなくなるなどの症状があります。背骨を構成する椎骨と椎骨の間にクッションの役割をする「椎間板」という軟骨があり、椎間板の中心部にあるゼラチン状の「髄核」が飛び出して神経を圧迫するのが「腰椎椎間板ヘルニア」です。鎮痛剤の服用やコルセット装着、リハビリテーション、神経ブロック



▲日本脊椎脊髄病学会指導医 理事長 中村英次郎



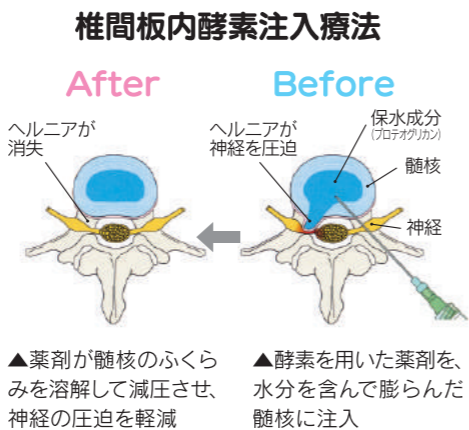
▲「最小侵襲脊椎手術」を行う日本脊椎脊髄病学会指導医の吉岩豊三医師。傷口が小さいため体への負担も少なく、早期の回復が可能となります。

注射などの保存療法を行っても改善が見られない場合は、手術療法を検討することになります。しかし、昨年8月から、手術療法を検討する前の段階で、新しい治療の選択肢として「椎間板内酵素注入療法」を導入しました。

椎間板の中に酵素を含む薬剤を注入してヘルニアによる神経の圧迫を弱める治療法です。手術室にてレントゲン台に横になり、X線でヘルニアのある椎間板を確認しながら注射を行います。治療後しばらく安静にして、副作用等がないことを確認し問題がなければ帰宅できます。

当院では、導入後半年間で10代から70代の患者さん23名にこの治療を行ったところ、そのうち20名に髄核の突出がなくなり、症状の改善が見られるなど良い治療結果が得られました。しかし、3名の方は改善が見られずその後手術を行いました。この

注射治療は日帰りで行うことができるため、入院を伴い全身麻酔で行う手術療法に比べて体への負担も少なく、有効な治療法として注目されています。



最小侵襲手術で体への負担を最小限に

腰痛のもう一つの代表的な疾患に「腰部脊柱管狭窄症」があります。「腰部脊柱管狭窄症」は高齢者に多く、脊髄の神経が通



▲日本ペインクリニック学会専門医の高谷純司医師。専門的な神経ブロックをより安全で確実に実施できる体制を整えています。

2018年に当院が行なった脊椎手術件数

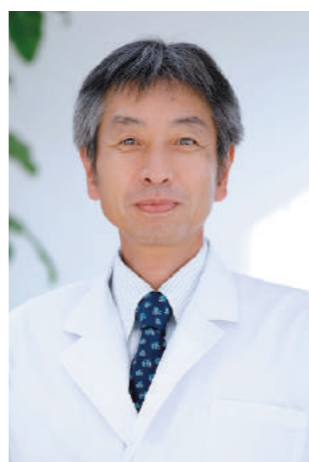
手術名	件数
椎弓切除術	159
脊椎固定術(後方)	82
内視鏡下椎間板摘出術	58
椎間板摘出術	51
椎弓形成術	28

るトンネル「脊柱管」が変性によって狭まり、内圧が高まって神経を圧迫する疾患です。下肢のしびれや痛みを伴って、途中で休憩をとりながらしか歩くのが難しい「間欠跛行」が特徴です。基本的な保存療法では改善が見られない場合は、手術療法を検討することになります。手術は、従来のようなメスで体を大きく切開するような方法を極力避け、最小限の切開で、小さな穴から内視鏡などの器具を挿入して行う「最小侵襲手術」を積極的に取り組んでいます。体への負担が少なく、回復が早いことが最大のメリットです。

当院では、手術を含む治療全般について、脊椎外科専門医とペインクリニック専門医がチームを組み、一人ひとりの患者さんについて情報を共有し、複数の専門医による多角的な判断のもと、最適、最善な治療法を検討しています。



▲理事長 中村英次郎



▲PRP・APPS療法実施責任者 かつ・かんせつ・リウマチセンター長 藤川陽祐

法は現在、米国でひざ関節症の患者さんを対象として、有効性を確認する大規模な治験が始まっています。安全性は確立された治療法ですが、有効性はまだ検討段階のため、健康保険が使用できず自由診療となります。しかし、今現在、つらい痛みを抱えて、何とかしたいと考えている患者さんに治療の選択肢を増やすため、当院ではこの治療を希望する方に提供しています。